

困ったとき、あなたの配偶者は、あなたを助けてくれるか：
「くらしと仕事に関する中高年インターネット調査」の調査結果（その4）

2021年10月26日

高山 憲之（公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構理事長・一橋大学名誉教授）

1. 問題の所在

中高年夫婦については、さらに紹介したいことが、もう1点ある。それは、中高年者本人（60～74歳）が病気・介護や家事で困ったときに、配偶者は助けてくれるか、という設問に対する回答にほかならない。

中高年夫婦は、長年にわたって連れ添ってきたカップルが圧倒的に多い、と考えてよいだろう。互いに信頼し、助けあいながら、安らぎを覚えつつ、日々の生活を送っているケースが一般的ではないか。そして、いったん、困ることが生じれば、その窮状に対して配偶者は真っ先に手を差し伸べることが期待されている。

実態は、どうか。この点を調べた調査（注1、注2）があったので、本稿では、その調査結果を報告する。さらに、関連設問への回答結果についても、併せて紹介しておきたい。

2. 設問・回答等

2.1 困ったとき、あなたの配偶者は助けてくれるか

設問： 病気・介護や家事で困ったときに、あなたの配偶者は助けてくれますか（配偶者が病気療養中ではない、あるいは入院・入所していない場合、という条件付きの設問）。

回答： はい 72% いいえ 4% 分からない 22% 答えたくない 2%

（有配偶の中高年男女に対する設問。有効回答は2265サンプル）

筆者コメント： 困ったときに助けてくれる配偶者の割合は中高年夫婦の7割強に達していた。一方、「助けてくれる」以外の回答をした中高年者が3割近くいた。後者は、本人が困っていても、その際に配偶者は必ずしも頼りにできないと思われている中高年夫婦を意味しており、少数派であるとは言え、無視することができないほどの割合となっていた。

2.2 謝意を伝える頻度

設問： どんな些細なことでも、厚意を示してくれた人に、あなたは、その場で直接、謝意を言葉で伝えますか。

（注1）調査名は「くらしと仕事に関する中高年インターネット調査」（2021年1月実施）であり、この調査は60～74歳の中高年者を調査対象としている。この調査の概要については、高山（2021）の付論を参照されたい。

（注2）この調査の「配偶者」には、事実上、夫婦として生活している内縁・同棲中のパートナーが含まれる一方、別居中であり、事実上、離婚状態にあるパートナーは除かれている。ただし、いわゆる“家庭内離婚”の状況にあるパートナーは除かれていない。

回答： 毎日 14% 週に1回以上 19% ときどき 53%
 興味がない 6% できない 8%

(有配偶の中高年男女に対する設問。有効回答は 2265 サンプル)

筆者コメント： 日本の中高年夫婦は、謝意を感じていても、それを言葉で相手に伝えることを日々していない人が多い（特に男性。注3）。しかし、たとえ気心が知れた仲であっても、速やかに謝意を言葉で直接、伝えた方が、疑問や誤解は残らないと思われる。

3. 今後の課題

青年時には、ほとんど誰にも未熟さが残っている。完璧な人は皆無に近い。結婚相手を決めるときも、その人の持つ美点だけに目を奪われ、欠点をほとんど知らないという例が少なくない。たとえば、金遣いは荒くないか、お金にだらしない人なのか、酒ぐせは悪くないか、浮気のおそれはないか、DV（精神的虐待も含む）はしないか、劣等感に囚われたままなのか、ストレスの解消方法に問題はないか、間違いや失敗をしても、それを反省し、次に備える力を持っているか、畏敬の念の持ち主か、ときに自分のことを後まわしにし、他人に尽くすことができるか、感謝したり謝ったりすることが、どこまで、できる人なのか、喜びや悲しみを共有できる人なのか、行動面における優先順位はどうなっているか、ものごとの許容範囲は狭くないか、他人を思いやる心に恵まれているか、等々。これらのことを結婚前に冷静に見抜くことは、至難の業である。

むしろ、結婚後のさまざまな苦い経験を経て、結婚前における予想のいくつかが勘ちがいであったことに気づかされる。ただし、相手方への思いや、双方の努力・歩み寄り、忍耐、さらには会話を重ねることなどを通じて、徐々に軌道を修正し、夫婦間のきずなを深めていく。そして、互いに信頼しあい、気遣いをしながら、安心のできる関係を築いていく。こういうケースが一般的ではないだろうか。しかし、例外的な中高年夫婦も、それなりにいる。

本稿で紹介したデータの出所は「くらしと仕事に関する中高年インターネット調査」である。この調査は、中高年夫婦の生活実態や、その有り様を真正面から調査したものではない。

中高年夫婦の有り様については、その実態がどうなっているのか、分かっていない部分が多い。政策対応を議論する前に、まず、実態を本格的に調査する必要があるのではないだろうか。

参考文献

青山ハッピー研究所（2011）「家族に“ありがとう”伝えていますか」第396回アンケート結果。

<https://www.asahigroup-holdings.com/company/research/hapiken/maian/bn/201110/00396/>

高山憲之（2021）「日本の中高年者は、本人が受給する予定の老齢年金月額がいくらになるかを知っているか：“くらしと仕事に関する中高年インターネット調査”の調査結果（その1）」年金シニアプラン総合研究機構、コラム欄、2021年10月6日。

<https://www.nensoken.or.jp/wp-content/uploads/nsc08.pdf>

（注3）たとえば、青山ハッピー研究所（2011）を見よ。